

令和5年度厚生労働科学研究費補助金(女性の健康の包括的支援政策研究事業)

(分担)研究報告書

保健・医療・教育機関・産業等における女性の健康支援のための研究
国際セクシュアリティ教育ガイダンスを活用した教材開発(レベル2～4)

研究分担者 西岡 笑子 順天堂大学保健看護学部看護学科母性看護学領域 教授
高橋 幸子 埼玉医科大学 医療人育成支援センター・地域医学推進センター 助教

研究要旨

国際連合教育科学文化機関(UNESCO)が定める「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」(以下「ガイダンス」)は、若者のリプロダクティブヘルスの増進を目的として、教育および保健当局や関連機関が包括的性教育のためのプログラムや教材を開発し、実践することを支援するための手引書である。このガイダンスは、世界各国のセクシュアリティ教育に関わる専門家の研究と実践を踏まえ作成され、性教育の世界のスタンダードともいわれている。本研究の目的は、ガイダンスに基づいた教材作成にあたり、多くの意見を反映したものとするための情報収集である。ガイダンスは先進国から発展途上国まで幅広くカバーするため、日本の性教育にガイダンスを反映する際には慎重な検討が必要であり、多くの意見を反映したものとする必要がある。

本研究の目的は、作成したまなブックを使用し、日本においてガイダンスに基づいた包括的性教育を実践し、その効果や今後の課題について明らかにすることである。令和5年度は、第二段階として、①私立中高一貫女子校 高校1年生、高校3年生、②公立小学校1校(4年)、中学校1校(1年生、3年生) ③公立高校1校(1年生)に対して行った。①当該高校保健体育科の教諭が作成した指導案をもとに保健体育の授業において、まなブックを教材として用いて授業を行った。その結果、独自に作成した知識得点は、授業前と授業後、授業前と授業終了後2か月後のいずれの時点においても、有意に得点が上昇していた。一方、CCHL得点 RSES得点は、授業前と授業後、授業前と授業終了後2か月後のいずれの時点においても、有意な得点の変化はみられなかった。

まなブックを使用して授業を行った教諭に対し、グループインタビューを行った。結果、①中高一貫女子校で実施したことによる特殊性により一般化に限界があるものの、まなブックを使用したことにより、まなブック使用前とは異なる授業展開も行われていた。

今年度で本研究班による実証研究は終了となるが、今後も、本研究班での成果物であるまなブックを使用した包括的性教育の普及に努めていく予定である。

研究協力者

野津有司 筑波大学名誉教授(レベル2教材監修)
黒山湖子 埼玉医科大学 研究補佐
大竹詩乃 順天堂大学 業務委託
荒木隆一郎 埼玉医科大学 非常勤講師
今野 淳一 桐朋女子中学・高等学校 校長
吉川 陽大 桐朋女子中学・高等学校 保健体育科
教諭 他 11 名
小峰大吾 坂戸市立城山小学校・中学校 校長
五十嵐碧 坂戸市立城山小学校教諭
小田怜子 坂戸市立城山中学校保健体育教諭
廣本義成 坂戸市立城山中学校保健体育教諭
村木宗徳 鉦路市立北陽高校 校長
他 保健体育・公民・家庭科担当教諭

A.研究目的

国際連合教育科学文化機関(UNESCO)が定め

る「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」¹⁾(以下「ガイダンス」)は、性と生殖に関する健康(SRH)を含む、子ども、若者の健康とウェルビーイング(幸福)を目的として、教育および保健当局や関連機関が包括的性教育のためのプログラムや教材を開発し、実践することを支援するための手引書である。このガイダンスは、世界各国のセクシュアリティ教育に関わる専門家の研究と実践を踏まえ作成された。2009年に初版が出版され、2018年に改訂版が出版された。欧米諸国だけでなく、韓国、台湾、中国においてもガイダンスが参照されており、まさに性教育の世界のスタンダードともいえるだろう。「ガイダンス」の中心となる考え方の主題として、1.人間関係、2.価値・権利・文化・セクシュアリティ、3.ジェンダーの理解、4.暴力と安全の確保、5.健康と幸福のためのスキル、6.人間のからだの発達、7.セクシュアリティと性的健康、8.性と生殖に関する健康がある。2018年の改

訂版では、持続可能な開発目標、(以下、SDGs)が改訂版の前提となっており、3.ジェンダーの理解、4.暴力と安全の確保の主題が追加された。SDGsが示す新たな開発の枠組みの中にある17のゴールの中で、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツは特に、目標3(健康)および目標5(ジェンダー平等)に関連しているが、それぞれのゴールは2030年の世界像において関連し合っている。人間の生殖システムや性生活などは目標1(貧困)、2(栄養)、4(教育)などによって目指されている世界の一部であり、性・セクシュアリティだけが特別に存在することはできない。

「ガイダンス」では、対象を4つの年齢区分(レベル1:5～8歳、レベル2:9～12歳、レベル3:12～15歳、レベル4:15～18歳)に分け、学習内容と学習目標をそれぞれに設定し、発達段階に合わせて段階的に継続した教育を行っている。その学習内容としては、性行動そのものだけではなく、人間関係(家族、友情、結婚など)や、価値観、文化、人権など、非常に多岐に渡り、その中身においても多様性が前提とされている。例えば、家族の項目では、レベル1では「家族にはさまざまな種類の家族が存在する」という内容から始まっている。

日本における女性の健康知識も含めた包括的性教育について、文部科学省による学習指導要領²⁾との比較を行った。その結果、国際基準より大きく遅れていることが明らかとなった³⁾。例えば、妊娠に関して、ガイダンスでは5-8歳(レベル1)の段階で、受精など子どもが生まれる過程を知り、意図しない妊娠、避妊方法については9-12歳(レベル2)で取り上げられていた。しかし、学習指導要領では双方ともに高校で扱う内容と規定されていた。また、学習指導要領ではがんについての教育は記載されているものの、女性特有の乳がんや子宮頸がんについては焦点が当てられていなかった。ヒトパピローマウイルス感染、ワクチンに関しては、ガイダンスにおいて9-12歳(レベル2)で教育すべきとの記載がある一方で、学習指導要領には記載がなかった。

月経に関する教育も世界と大きな開きがあった。ガイダンスでは月経中に女性が快適に過ごすためのサポートが記載されていたが、学習指導要領では月経について小学校で紹介された後は月経の過ごし方に関する記述はなかった。さらに、婦人科等へのアクセスについて、ガイダンスでは詳細に記載されている一方、学習指導要領では中学校、高校のタイミングにおいて一般的な医療機関の利用に関する記述にとどまっており、婦人科等の利用についての特徴的な記載はなかった。

これらの結果から、今後日本においてガイダンスに基づいた包括的性教育を導入していくことが大切である。しかし、ガイダンスは先進国から発展途上国

まで幅広くカバーしているために、日本の現状にそぐわない部分も多々あり、日本の性教育にガイダンスを反映する際には慎重な検討が必要である。そこで、申請者らは、令和3年度にガイダンスに基づいた教材作成にあたり、子どもの性教育に携わっている養護教諭、教員(クラス担任)、医療職(小児科医、産婦人科医、泌尿器科医)および保護者に個別インタビュー調査を行い、日本における性教育の現状と、教材案についての意見を反映し、日本の社会的背景、文化等を考慮した教材(まなブックレベル2.3.4、以下、まなブック)および指導案開発を行った。

本研究の目的は、作成したまなブックを使用し、日本においてガイダンスに基づいた包括的性教育を実践し、その効果や今後の課題について明らかにすることである。令和4年度は、第一段階として、私立中高一貫女子校 中学1年生に対して行った。令和5年度は、第二段階として、①私立中高一貫女子校 高校1年生、高校3年生、②公立小学校1校(4年生 児童約20名)、中学校1校(中学1年・3年約45名)、③公立高校1校(1年生198名)に対して行った。

B. 研究方法

1-①. 国際セクシュアリティ教育ガイダンスに基づく関連教材“まなブック”を用いた包括的性教育プログラム導入の効果と課題の検討～レベル3.4 私立中高一貫女子校での実践～

1)対象者: 中高一貫女子校に在学する高校1年生172名、高校3年生172名

2)方法: 研究分担者らが作成したまなブックレベル2(9-12歳向け)、レベル3(12-15歳向け)、レベル4(15-18歳以上向け)の教材を用い、作成したまなブックに基づき、中高一貫女子中学・高等学校保健体育科教諭が指導案を作成した。指導案に基づき、高校1年生、高校3年生の保健体育を実施した(45分間/回)。高校1年生は、15回、高校3年生は2回の授業を実施した。保健体育の授業前、授業後および授業終了後2か月後、計3回Google Formによるweb調査を実施した。保健体育の授業は、生徒は義務として受けるが、研究に協力するか否かについては、生徒および保護者の自由意思で決めることができる。

3)授業内容(タイトルのみ記載)

<授業内容(タイトルのみ)>

1. 高校1年生

・1時間目: オリエンテーション(Google Formによるweb調査実施)

性分化・性の多様性①

・2時間目: 性分化・性の多様性②

・3時間目: 性分化・性の多様性③

- ・4 時間目:女性器(外性器、内性器)、月経のしくみ
- ・5 時間目:基礎体温、性周期と基礎体温、ホルモン分泌の関係性、PMS、月経困難症
- ・6 時間目:生理用品の種類、素材、使い方、月経に伴う症状
- ・7 時間目:避妊①
- ・8 時間目:避妊②
- ・9 時間目:性感染症①
- ・10 時間目:男性の体、男性器
- ・11 時間目:受精・妊娠・出産
- ・12 時間目:妊娠の成立と各器官の形成、胎児、出産、多胎、まとめ

2. 高校 3 年生

- ・1 時間目:オリエンテーション(Google Form による web 調査実施)
ジェンダー
- ・2.3 時間目:性暴力、デート DV

4)調査内容

(1)高校 1 年生

(1)知識得点:独自に作成した質問項目を用いた。

(1;レベル 2 の内容 25 項目;25 点満点)

- ① 性同一性
- ② ジェンダー
- ③ 思春期の体の変化
- ④ 思春期の心の変化
- ⑤ 男性の二次性徴(精通)
- ⑥ 射精、精子数の年齢的变化
- ⑦ 射精
- ⑧ 射精
- ⑨ 初経
- ⑩ 月経周期
- ⑪ 正常な月経周期
- ⑫ 無月経
- ⑬ PMS
- ⑭ 性的指向
- ⑮ プライベートゾーン
- ⑯ 性被害に遭った場合の相談
- ⑰ 膣の常在菌
- ⑱ 月経と妊娠
- ⑲ 妊娠を避ける方法
- ⑳ 心地よい距離
- ㉑ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- ㉒ 性暴力
- ㉓ 妊娠と年齢
- ㉔ 生殖補助医療
- ㉕ 自然妊娠

(2;レベル 3 の内容 30 項目;30 点満点)

- ① SOGIE

- ② 性的指向
- ③ 性自認
- ④ 性表現
- ⑤ ジェンダー
- ⑥ LGBTQ
- ⑦ 月経
- ⑧ 性周期と女性への影響
- ⑨ 生理用品
- ⑩ 月経中の生活調整
- ⑪ 鎮痛薬
- ⑫ 産婦人科受診
- ⑬ 低用量ピル
- ⑭ コンドーム
- ⑮ 緊急避妊法
- ⑯ STI
- ⑰ STI 予防とコンドーム
- ⑱ STI と治療
- ⑲ STI と不妊
- ⑳ 子宮頸がん
- ㉑ HPV ワクチン
- ㉒ 精通
- ㉓ 射精
- ㉔ セルフプレジャー
- ㉕ 性的同意
- ㉖ 排卵期の性交渉
- ㉗ 着床
- ㉘ 受精から着床までの期間
- ㉙ 妊娠後の月経停止
- ㉚ ダイエットと無月経

(2) 高校3年生:高校 1 年生用の調

(1)(2)に加え(3)

(3;レベル 4 の内容 25 項目;25 点満点)

- ① アウティング
- ② アンコンシャス・バイアス
- ③ セクシュアリティ
- ④ 性的自立
- ⑤ 性と生殖の健康と権利
- ⑥ 性的同意の相手
- ⑦ 性的同意 NO
- ⑧ 性的同意と性暴力
- ⑨ ルッキズム
- ⑩ 性やジェンダーの基づく暴力と年齢
- ⑪ 性やジェンダーに基づく暴力と異性
- ⑫ 性やジェンダーに基づく暴力と関係性
- ⑬ 無理やり性交をされたことのある年代
- ⑭ DV
- ⑮ デート DV
- ⑯ 無月経の理由
- ⑰ 予期せぬ妊娠と産婦人科
- ⑱ 産むか産まないかの自己決定

- ⑲ 人工妊娠中絶のタイムリミット
- ⑳ 出産予定日
- ㉑ 妊娠の方法
- ㉒ プレコンセプションケア
- ㉓ 不妊の原因
- ㉔ HPV ワクチン
- ㉕ STI と治療

- (2) 伝達的批判的ヘルスリテラシー尺度
(Communicative and Critical Health Literacy; 以下 CCHL) (5 項目; 25 点満点)³⁾
- (3) Rosenberg 自尊感情尺度日本語版
(Rosenberg Self Esteem Scale; 以下 RSES)
(10 項目; 40 点満点)⁴⁾

本研究は、順天堂大学保健看護学部研究等倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号: 順保第 4-21 号)。調査期間は令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月 31 日とした。

1-②. 国際セクシュアリティ教育ガイダンスに基づく関連教材“まなブック”を用いた包括的性教育プログラム導入の効果と課題の検討～レベル 2 公立小中学校での実践～

1) 対象者: 小学 4 年生児童約 20 名・中学 1 年生・中学 3 年生生徒約 45 名

2) 方法: 教材・まなブックレベル 2 (9-12 歳向け) 本冊、別冊およびまなブックレベル 3 (12-15 歳向け) 本冊、別冊を使用する。

保健体育の授業前、授業後および授業終了後 3 か月後、計 3 回 Google Form による web 調査を実施した。保健体育の授業は、生徒は義務として受けるが、研究に協力するか否かについては、児童・生徒および保護者の自由意思で決めることができる。

3) 授業内容(タイトルのみ記載)

【小学 4 年生】

- ・1 時間目: 思春期の体の変化、心の変化、初経、精通、月経、射精
- ・2 時間目: 月経に関わるホルモン、女性の内性器、月経のメカニズム、PMS
- ・3 時間目: 月経中も気持ちよく過ごすコツ、様々な生理用品
- ・4 時間目: 男性器における身体の変化
- ・5 時間目: 受精・妊娠・出産

【中学 1 年生】

- ・1 時間目: 思春期の体の変化、心の変化、初経、精通、月経、射精
- ・2 時間目: 月経に関わるホルモン、女性の内性器、月経のメカニズム、PMS
- 月経中も気持ちよく過ごすコツ、様々な生理用品

- ・3 時間目: 男性器における身体の変化
- 受精・妊娠・出産

【中学 3 年生】

- ・1 時間目: 性感染症
- ・2 時間目: セルフプレジャー
- ・3 時間目: 交際・デート DV

4) 調査内容

・小学 4 年生 児童約 20 名

・中学 1・3 年生 生徒約 45 名

(1) 知識得点: 独自に作成した質問項目を用いた。

(1; レベル 2 の内容 13 項目; 13 点満点)

- ① 男女の思春期の体の変化
- ② 女性器の内性器
- ③ 男性器
- ④ 思春期の心の変化
- ⑤ 月経、射精
- ⑥ 初経・精通
- ⑦ 月経に関わるホルモン
- ⑧ 月経のメカニズム
- ⑨ PMS
- ⑩ 月経中も気持ちよく過ごすコツ
- ⑪ 様々な生理用品
- ⑫ 男性における身体の変化
- ⑬ 受精・妊娠・出産

(2) CCHL

(3) RSES

・中学 1・3 年生

(2) 知識得点: 独自に作成した質問項目を用いた。

(2; レベル 2/3 の内容 13 項目; 13 点満点)

- ① 男女の思春期の体の変化
- ② 女性器の内性器
- ③ 男性器
- ④ 思春期の心の変化
- ⑤ 月経、射精
- ⑥ 初経・精通
- ⑦ 月経に関わるホルモン
- ⑧ 月経のメカニズム
- ⑨ PMS
- ⑩ 月経中も気持ちよく過ごすコツ
- ⑪ 様々な生理用品
- ⑫ 男性における身体の変化
- ⑬ 受精・妊娠・出産

(2) CCHL

(3) RSES

1-③. 国際セクシュアリティ教育ガイダンスに基づ

く関連教材“まなブック”を用いた包括的性教育プログラム導入の効果と課題の検討～レベル 4 公立高校での実践～

1)対象者: 高校 1 年生 198 名

2)方法: 教材・まなブックレベル4(15~18 歳向け)を使用する。

保健体育の授業前、授業後および授業終了後 3 か月後、計 3 回 Google Form による web 調査を実施した。保健体育の授業は、生徒は義務として受けるが、研究に協力するか否かについては、児童・生徒および保護者の自由意思で決めることができる。

3)授業内容

【保健体育】

- ・1時間目:性的同意って何だろう?
- ・2 時間目:メディアが与える影響を考えよう
- ・3 時間目:性暴力・ジェンダーに基づく暴力
- ・4 時間目:性反応と性的行動

【公民】

- ・1時間目: 性犯罪の刑法改正について考えてみよう

【家庭科】

- ・1 時間目:「性的自立」ってなんだろう
- ・2 時間目:妊娠や避妊は計画的に行うことができる
- ・3 時間目:妊娠の不安を抱えた時、予期せぬ妊娠をした時

4)調査内容

(1)知識得点(25 項目;25 点満点)

(1;レベル 2 の内容 25 項目;25 点満点)

- ① 性同一性
- ② ジェンダー
- ③ 思春期の体の変化
- ④ 思春期の心の変化
- ⑤ 男性の二次性徴(精通)
- ⑥ 射精、精子数の年齢的变化
- ⑦ 射精
- ⑧ 射精
- ⑨ 初経
- ⑩ 月経周期
- ⑪ 正常な月経周期
- ⑫ 無月経
- ⑬ PMS
- ⑭ 性的指向
- ⑮ プライベートゾーン
- ⑯ 性被害に遭った場合の相談
- ⑰ 膣の常在菌
- ⑱ 月経と妊娠
- ⑲ 妊娠を避ける方法
- ⑳ 心地よい距離
- ㉑ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

- ㉒ 性暴力
- ㉓ 妊娠と年齢
- ㉔ 生殖補助医療
- ㉕ 自然妊娠

(2;レベル 3 の内容 30 項目;30 点満点)

- ① SOGIE
- ② 性的指向
- ③ 性自認
- ④ 性表現
- ⑤ ジェンダー
- ⑥ LGBTQ
- ⑦ 月経
- ⑧ 性周期と女性への影響
- ⑨ 生理用品
- ⑩ 月経中の生活調整
- ⑪ 鎮痛薬
- ⑫ 産婦人科受診
- ⑬ 低用量ピル
- ⑭ コンドーム
- ⑮ 緊急避妊法
- ⑯ STI
- ⑰ STI 予防とコンドーム
- ⑱ STI と治療
- ⑲ STI と不妊
- ㉑ 子宮頸がん
- ㉒ HPV ワクチン
- ㉓ 精通
- ㉔ 射精
- ㉕ セルフプレジャー

(3;レベル 4 の内容 25 項目;25 点満点)

- ① アウティング
- ② アンコンシャス・バイアス
- ③ セクシュアリティ
- ④ 性的自立
- ⑤ 性と生殖の健康と権利
- ⑥ 性的同意の相手
- ⑦ 性的同意 NO
- ⑧ 性的同意と性暴力
- ⑨ ルッキズム
- ⑩ 性やジェンダーのに基づく暴力と年齢
- ⑪ 性やジェンダーに基づく暴力と異性
- ⑫ 性やジェンダーに基づく暴力と関係性
- ⑬ 無理やり性交をされたことのある年代
- ⑭ DV
- ⑮ デート DV
- ⑯ 無月経の理由
- ⑰ 予期せぬ妊娠と産婦人科
- ⑱ 産むか産まないかの自己決定
- ⑲ 人工妊娠中絶のタイムリミット
- ⑳ 出産予定日
- ㉑ 妊娠の方法

- ② プレコンセプションケア
- ③ 不妊の原因
- ④ HPV ワクチン
- ⑤ STI と治療
- (2) CCHL
- (3) RSES

2. “まなブック”を用いた包括的性教育プログラム導入の効果と課題～教材を使用した保健体育教員へのインタビュー～

- 1) 対象者: 中高一貫女子校に勤務し、高校 1 年生を担当する保健体育教諭 3 名
- 2) 方法: 分担研究者より本人に説明文書に基づき十分に説明を行った上で、本研究への参加について、文書にて同意を得た。インタビューガイドに基づく半構造化面接法によって行った。面接はグループインタビューとし、1 回の面接時間は 60 分以内とした。面接は、ZOOM によるオンラインで実施し、対象者の承諾を得て音声録音した。

<インタビュー内容>

- 1) 年代、性別
- 2) 教員経験年数、現任校の学校での経験年数
- 3) 申請者および研究分担者らが作成したレベル 2 (9-12 歳向け) レベル 3 (12-15 歳向け)、レベル 4 (15-18 歳以上向け) の教材を用い、高校 1 年生の保健体育を 12 回実施 (45 分間/回) 後の感想、使いやすさ、使いにくさ、実施して困ったこと、改善点など。
- まなブックを使用した授業案を作成するうえで、困った点、良かった点、感じた点など。
- 4) 音声データの逐語録の作成を行い、逐語録の内容分析を行った。

C. 研究結果

1-①. 国際セクシュアリティ教育ガイダンスに基づく関連教材“まなブック”を用いた包括的性教育プログラム

グラム導入の効果と課題の検討～レベル 3.4 私立中高一貫女子校での実践～

実証授業を行う学校の保健体育教員に、事前にまなブックを渡し、指導案を作成していただいた。その結果、高校 1 年生に対し、レベル 2 本冊、レベル 2 別冊、レベル 3 本冊、レベル 3 別冊、レベル 4 も一部使用したい、との意向であった。意向に沿ってまなブックを配布することとした。

1) 分析対象者数

高校 1 年生女子生徒 172 名に対し、研究目的、方法等を説明し、Google Form にて、生徒本人および保護者の同意を得ることができた者。①授業開始前アンケート、②授業後アンケート、③授業終了 2 か月後アンケート、①、②、③全てに回答した者は 102 名 (59.3%) であった。①、②、③全てに回答した 102 名を対象とし行った。

高校 3 年生女子生徒 172 名に対し、研究目的、方法等を説明し、Google Form にて、生徒本人および保護者の同意を得ることができた者。①授業開始前アンケート、②授業後アンケート、③授業終了 2 か月後アンケート、①、②、③全てに回答した者は 53 名 (30.8%) であった。①、②、③全てに回答した 53 名を対象とし行った。

2) 分析結果

授業前、授業後、授業終了 2 か月後の得点推移を表 1.2 に示す。独自に作成した知識得点は、授業前と授業後、授業後と授業終了後 2 か月後、授業前と授業終了後 2 か月後のいずれの時点においても、有意に得点が上昇していた。

CCHL 尺度得点は、高校 1 年生においては、授業前と授業後、授業前と授業終了後 2 か月後の時点において、有意に得点が上昇していた。一方、高校 3 年生においては、いずれの時点においても、有意な得点の変化はみられなかった。

RSES 尺度得点は、高校 1 年生および高校 3 年

表 1. 高校 1 年生 授業前、授業後、授業終了 2 か月後の得点推移

(n=102)	授業前	授業直後	2 か月後	t 値 ①授業前～直後 ②授業前～2 か月後	p 値	F 値 反復測定による一元配置分散分析	p 値
知識得点 (レベル 2)	15.5±4.0	21.0±2.4	21.0±2.1	-12.34 -14.04	<0.001 <0.001	135.05	<0.001
知識得点 (レベル 3)	11.9±4.7	19.5±2.8	19.6±2.7	-13.64 -14.86	<0.001 <0.001	159.82	<0.001
CCHL	18.5±3.1	19.8±2.7	20.3±2.6	-3.22 -4.21	0.002 <0.001	10.16	<0.001
RSES	27.9±3.1	28.3±3.3	28.1±3.3	-0.89 -0.27	0.378 0.786	0.395	0.670

(対応のある t 検定/反復測定における一元配置分析)

生ともにいずれの時点においても、有意な得点の変化はみられなかった。

・性感染症や子宮頸がんについてもっと知りたいです。

表2. 高校3年生 授業前、授業後、授業終了2か月後の得点推移

(n=53)	授業前	授業直後	2か月後	t値 ①授業前～直後 ②授業前～2か月後	p値	F値 反復測定による一元配置分散分析	p値
知識得点 (レベル2)	19.1±3.0	20.0±2.7	21.1±2.0	-1.66 -4.04	0.010 <0.001	7.98	0.001
知識得点 (レベル3)	17.7±3.4	18.9±4.0	19.1±3.6	-1.69 -2.06	0.096 0.044	2.25	0.001
知識得点 (レベル4)	18.2±5.0	21.4±4.1	21.0±4.3	-3.42 -3.34	0.001 0.002	7.91	<0.001
CCHL	19.1±3.0	19.3±2.7	19.7±2.9	-0.40 -0.86	0.688 0.392	0.71	0.495
RSES	29.0±2.4	28.5±2.6	28.8±3.5	-0.89 -0.33	0.373 0.743	0.309	0.735

(対応のあるt検定/反復測定における一元配置分析)

3) 性教育や心身の健康に関することで詳しく知りたい事柄、その他の意見等。(原文のまま掲載)

3)-1 1 高校 1 年生

(1) 授業前

- ・自分の性が 2 つあり、両性愛者の場合はありますか？
- ・子宮頸がんについてです。
- ・LGBTQ について詳しく知りたいです。
- ・先進諸国と比較してなぜ日本は性的思考をはじめとした多様性が認められていないのか、同年代の人とクラスディスカッションをしたいです。そして性的暴力のうちグルーミングについて知りたいです。
- ・性的マイノリティについて

(2) 授業後

- ・いま女子校で性教育を行っているが、共学高校や男子校ではどのような教育が行われているか知りたい。時折インターネット上でパートナー同士で互いの体の仕組みについての知識が浅く、相手を傷つける対応や間違った避妊法をしてしまうということを耳にしたため。もし自分がパートナーを持った時、接し方について考えなければいけないと思う。
- ・LGBTQ についてもっと知りたい。生物的な性教育だけでなく、精神的な面で異性のことを知りたい。
- ・初経を迎えてどのくらいの期間が、月経周期が乱れていても心配する必要がない時期なのか。

- ・性感染症についてより多くの情報が提供されると学びにつながると思います。
- ・海外の性教育はいつからどのようにおこなわれているのか・性犯罪にはどのようなものがあり何に気を付けるべきなのか

- ・どういう影響によって人のマイノリティが変わるのか、詳しく知りたい。
- ・一年間ありがとうございました。貴重な学習ができました。(複数)

3)-2 高校 3 年生

(1) 授業前

- ・自己肯定感を上げる方法
- ・自信を持つことは大切なのか
- ・性的なことに関係する法律
- ・パートナーとの性交に関して、本来の「楽しさ」や「いかに大切なコミュニケーションであるか」を説明していただきたいです。小・中・高ともに、性行為の際の注意点や性病を軸に教わってきましたが、正直同じ内容ばかりで飽きました。今までのその教養を踏まえたうえで、人生の先輩方が性行為に対して思う心地よさ、本質的な意味について伺いたいです。

(2) 授業後

- ・自己肯定感の上げ方、長所の見つけ方
- ・ネガティブになったり、落ちこぼれたりした時の立ち直り方など
- ・学んだことは理解できても、やはり実際性行為をされてしまった時にどうすれば良いのか。様々なパターンを想定して知りたい。
- ・人間はなぜ分類されるのか。
- ・性教育を普及させて話しても恥ずかしくない世の中にすべき。

2. “まなブック”を用いた包括的性教育プログラム導入の効果と課題～教材を使用した保健体育教員へのインタビュー～ (レベル 3 中高一貫女子校教員へのインタビュー)

インタビューに協力いただいた教員は合計 3 名で

あった。インタビュー時間は 50 分であった。

1) 教員の属性

(1) 年代および性別 40 代 2 名 60 代 1 名、女性 3 名(40 代男性 1 名もコーディネーターとしてインタビューのみ参加)

(2) 教員経験年数および現任校での経験年数: 平均 23.6 年

(中央値 16 年;15-40 年)

2) 研究分担者らが作成したレベル 2-4 の教材を用い、高校 1 年生の保健体育を 12 回実施(45 分間/回)後の感想、使いやすさ、使いにくさ、実施して困ったこと、改善点など。

・性分化(レベル 4P3 を使用)、様々な避妊法(レベル 3 別冊)、男性の体(レベル 2P5、レベル 3P6)、女性の体(レベル 2P6、レベル 3P5)、月経(レベル 2P10-11)、性感染症(レベル 4P25-26)は、まなブックを使用した。性感染症、妊娠の仕組み、HIV の部分は、まなブックとは別に独自に作成した資料を使用した。(A)。

・性分化(レベル 4P3 を使用)、様々な避妊法(レベル 4P21-22)は使用した。男性の体(レベル 2P5、レベル 3P6)、女性の体(レベル 2P6、レベル 3P5)、月経(レベル 2P10-11)、性感染症(レベル 4P25-26)は、まなブックに加えて独自に作成した資料を使用した。月経用品、妊娠の仕組み、HIV の部分は、まなブックとは別に独自に作成した資料を使用した。また、月経用品は、生徒たちに資料を作成させたり、実物を見せたりした。(B)。

・性器の図がもう少し細かく正確なもの、本物に近い図であった方がありがたかった。男性器であれば、精巣でも精巣上部とか、女性器であれば、膣と子宮頸管、卵管膨大部などもう少し細かく記載していただくと良い。読み物としては良いが、月経周期の子宮内膜の変化、ホルモンの分泌の図があった方が良かった。結局は、もう少し細かい図表は自分たちで作成したものを配布した(A,B)。

・冊子の順番が私たちの授業の順番と前後したり、レベル 2.34 と色々と分かれてしまっていたので、もう少し系統的になっているとありがたい。(A)

・冊子が何冊もあったので、こちらの冊子、今度はこちらの冊子、と行き来することがあった。(B)

・冊子になっているというよりは、単元ごとになっている方が使いやすい。(B)。

・高校 1 年で扱っている内容がまなブックよりも詳しく、まなブックだけではなく、独自に資料を配布した部分があった。10 年以上保健体育でこの内容を教えてきて、持って行き方、話す順番が異なっていた(C)。

・性の多様性のページ(レベル 4P3)はすごく関心をもって黙々と読んでいる生徒が多かったという印象がある。このあたりのページはすごく貴重な情報なの

ではないかと思う(C)。

・冊子での配布か、PDF での配布のどちらが良いか、は人によると思うが、冊子で配布された方が、見る人は見るのではないかな。毎日タブレット端末を持参していない生徒もいるので、結局冊子も必要になるのではないかな。本校では冊子で配布が主流である(B)。

・今回 A4 サイズの冊子を配布したが、A5 サイズの冊子でも良いかもしれない。(B)

・レベル 2-4 が一冊になっているか、2 穴パンチで穴を開けて、綴じていくのというのも良いのではない(D)。

4) まなブックをみて、以前の授業と伝え方を変更した点があるかどうか、もしあるということであれば、どの部分か。

・性の多様性、ジェンダーから導入した(レベル 4P3、全員)。

・「相談先一覧」は生徒たちが食いついてよく見ていた。これまで「相談できる場所はあるよ」という紹介はしても、具体的な紹介はできていなかった。授業を通して、その情報を教えたというところは、すごく大きかったと思う。(C)

D. 考察

1ー①. 国際セクシュアリティ教育ガイダンスに基づく関連教材“まなブック”を用いた包括的性教育プログラム導入の効果と課題の検討～レベル 3.4 私立中高一貫女子校での実践～

1) 分析対象者数

高校 1 年生女子生徒 172 名に対し、研究目的、方法等を説明し、Google Form にて、生徒本人および保護者の同意を得ることができた者。①授業開始前アンケート、②授業後アンケート、③授業終了 2 か月後アンケート、①、②、③全てに回答した者は 102 名(59.3%)であった。①、②、③全てに回答した 102 名を対象とし行った。

高校 3 年生女子生徒 172 名に対し、研究目的、方法等を説明し、Google Form にて、生徒本人および保護者の同意を得ることができた者。①授業開始前アンケート、②授業後アンケート、③授業終了 2 か月後アンケート、①、②、③全てに回答した者は 53 名(30.8%)であった。①、②、③全てに回答した 53 名を対象とし行った。令和 4 年度、Google Form での同意書提出やアンケート回答について、タブレットを持参しない、学校の Wi-Fi 環境の問題、QR コードを読み込んで入力していくという作業は不慣れであった、生徒の準備性として、紙の方がデータを回収しやすかったのではないかと、教員からの意見がみられた⁶⁾。令和 5 年度においては、タブレットおよび紙での配布・回収等、実施校相談し、実施した

ところ、高校 1 年生において回収率の上昇がみられ、前年度の問題点は解消した。一方、高校 3 年生では、回収率が 30.8%と令和 4 年度の中学 1 年生と同様の回収率であった。学校内の授業で実施する調査は、強制力が働きやすく、生徒の自由意思が尊重されない可能性が考えられたが、今回の高校 3 年生の回収率の低さは、研究依頼の際、研究参加、アンケートの回答の可否について、保健体育科の教員には知らされないこと、成績には一切関係がないこと、などを説明していたことから、強制力が働かず、生徒の自由意思により参加できたのではないかと考えられる。高校 3 年の 9 月に授業を実施、授業終了 2 か月後の調査が 11 月と大学受験期に入っていたことが影響した可能性も否めない。

2) 分析結果

独自に作成した知識得点は、授業前と授業後、授業前と授業終了後 2 か月後のいずれの時点においても、有意に得点が上昇していた。授業後だけでなく授業終了後 2 か月後においても、知識得点の低下がみられなかったことから、知識の定着が図られたことが示された。日本において、高校生を対象とした国際セクシュアリティ教育ガイダンスに基づいた包括的性教育の先行研究は見当たらなかった⁷⁾。また、日本では、性教育として様々な取り組みがなされているが、今回の研究デザインのように介入前後で対象者に調査を実施し、効果測定をしているものが少なく、性教育実施後のみの調査や感想などをまとめた実践報告が多い⁸⁾という現状がある。これは、学校が医師や助産師等に外部講師として、性教育を依頼する学校が多く⁹⁾、その効果を評価するまでに至っていないことが考えられる。今回の研究は、Eva^ら⁷⁾のシステムティックレビューの対象となった研究のように、比較対照群を設けることができなかった。

CCHL 尺度得点は、高校 1 年生のみ授業前と授業後、授業前と授業終了後 2 か月後の時点において、有意に得点が上昇していた。CCHL は、ヘルスリテラシーの一次予防の段階に位置し、情報検索、理解、評価、意思決定・行動、伝達・コミュニケーションの 5 つの能力を測っている¹⁰⁾。作成したまなブックには、これらの能力を上昇させる要素が含まれていたと考えられる。高校 1 年生は、12 回にわたる授業が行われたのに対し、高校 3 年生は 2 回の授業であったことが結果に影響していることが考えられる。

一方で、RSES 尺度得点は、授業前と授業後、授業後と授業終了後 2 か月後、授業前と授業終了後 2 か月後のいずれの時点においても、有意な得点の変化はみられなかった。包括的性教育を受けることにより、自尊感情が高まることを想定し、本尺度の測定を行ったが統計的に有意な上昇はみられなかつ

た。

2. “まなブック”を用いた包括的性教育プログラム導入の効果と課題～教材を使用した保健体育教員へのインタビュー～(レベル 3 中高一貫女子校教員へのインタビュー)

1) 研究分担者らが作成したレベル 2-4 の教材を用い、高校 1 年生の保健体育を 12 回実施(45 分間/回)後の感想、使いやすさ、使いにくさ、実施して困ったこと、改善点など。

(1) 中高一貫女子校で実施したことによる特殊性

実証研究の対象となった中高一貫女子校は、もともと踏み込んだ性の健康教育を行っていたことから、まなブックの内容よりも詳細に教えている項目が複数みられた。図表等、より正確、詳細なものを希望していた。今後、他の学校で実証授業を行い、必要であれば、図表の修正について検討する必要がある。

2) まなブックをみて、以前の授業と伝え方を変更した点があるかどうか、もしあるということであれば、どの部分か。

令和 4 年度の中学 1 年生での実施時と同様⁶⁾、性の多様性を導入として実施していた教員が複数みられた。2018 年に改訂された国際セクシュアリティ教育ガイダンスでは、包括的性教育の前提として「セクシュアリティはジェンダーとの関連なしには理解できないこと」、「多様性はセクシュアリティの基本であること」が強調されている¹⁾。今後、まなブックを用いた性の健康教育について、包括的性教育の前提についての啓発に努めていく必要がある。

E. 結論

令和 5 年度は、第二段階として、①私立中高一貫女子校 高校 1 年生、高校 3 年生、②公立小学校 1 校(4 年)、中学校 1 校(1 年生、3 年生) ③公立高校 1 校(1 年生)に対して行った。①当該高校保健体育科の教諭が作成した指導案をもとに保健体育の授業において、まなブックを教材を用いて授業を行った。その結果、独自に作成した知識得点は、授業前と授業後、授業前と授業終了後 2 か月後のいずれの時点においても、有意に得点が上昇していた。一方、CCHL 得点 RSES 得点は、授業前と授業後、授業前と授業終了後 2 か月後のいずれの時点においても、有意な得点の変化はみられなかった。

まなブックを使用して授業を行った教諭に対し、グループインタビューを行った。結果、①中高一貫女子校で実施したことによる特殊性により一般化に限界があるものの、まなブックを使用したことにより、ま

なブック使用前とは異なる授業展開も行われていた。

今年度で本研究班による実証研究は終了となるが、今後も、本研究班での成果物であるまなブックを使用した包括的性教育の普及に努めていく予定である。

F. 健康危険情報

なし

謝辞

本研究の実証授業校長先生をはじめ、保健体育科の先生方、研究に参加いただいた生徒の皆様、研究にご理解いただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 西岡笑子, 高橋幸子, 荒田尚子. 国際セクシュアリティ教育ガイダンスに基づく教材“まなブック”レベル 2 を用いた包括的性教育プログラム導入の効果と課題の検討. 思春期学 42(1)159-165, 2024.
- 2) 西岡笑子. プレコンセプションケアと包括的性教育. 思春期学 42(1)22-27, 2024.
- 3) 西岡笑子. HPV ワクチン 日本思春期学会以外の団体が作成した動画の構成と有効な啓発とは？. 思春期学 42(1)134-139, 2024.
- 4) 西岡笑子, 飯島佐知子, 三上由美子, 横山和仁. 働く女性の健康に関する Web 調査—女性特有症状とその対処およびがん検診受検状況 正規雇用と非正規雇用の比較—4 順天堂保健看護研究 12, 12-23, 2024.
- 5) 西岡笑子. わが国の性教育の歴史的変遷とプレコンセプションケア. 産婦人科の実際. 73(5), 453-459, 2024.
- 6) 高橋幸子. 思春期の子どもたちと性の問題. 日本医師会雑誌 152(6) 617 - 620, 2023
- 7) 高橋幸子. 性教育の実践と課題 周産期医学 53(5) 753 - 757, 2023
- 8) 高橋幸子. 女子から寄せられた悩みから見えてきたこと. 日本思春期学会雑誌. 42(1) 119 - 123, 2024
- 9) 高橋幸子. HPV ワクチンキャッチアップ接種と大学におけるプレコンセプションケア 1. 大学病医院における医学生への啓発. 日本思春期学会雑誌 42(1) 124 - 129, 2024
- 10) 高橋幸子. 自分や相手を大切にする学び・包括的性教育の意義と実践とは？月刊先端教育 2023 年 9 月号 62 - 63, 2023
- 11) 高橋幸子. まじめに楽しく、「自分ごと」になる講

- 演会. 教職研修 2023 年 11 月号 26 - 27, 2023
- 12) 高橋幸子. 学齢期に必要な性の学び. 指導と評価 2024 年 3 月号 42 - 44, 2024
 - 13) 高橋幸子. 性感染症とプレコンセプションケア. 産婦人科の実際(in press), 2024.

2. 学会発表

- 1) 西岡笑子, 高橋幸子, 荒田尚子. 国際セクシュアリティ教育ガイダンスに基づく教材“まなブック”レベル 2 を用いた包括的性教育プログラム導入の効果と課題の検討. 第 42 回日本思春期学会学術集会. 2023.
- 2) 西岡笑子, 高橋幸子, 荒田尚子. “まなブック”を用いた包括的性教育プログラム導入の効果と課題—教材を使用した保健体育教員へのインタビュー—. 第 42 回日本思春期学会学術集会. 2023.
- 3) 西岡笑子, 飯島佐知子, 三上由美子, 横山和仁. 働く女性の健康に関する Web 調査—女性特有症状とその対処およびがん検診受診状況 正規雇用と非正規雇用の比較 第 94 回 日本衛生学会学術総会. S260, 2024.
- 4) Emiko Nishioka, Sachiko Takahashi, Koko Kuroyama, Naoko Arata. Impact of a comprehensive sex education program using "Mana Book" level 2 teaching materials based on the International Technical Guidance on sexuality education. 26th congress of the World Association for sexual health(WAS). Turkey
- 5) Sachiko Takahashi. WAS SEC SYMPOSIUM: “Advancing Comprehensive Sexuality Education in tumultuous times: A panel discussion presented by WAS Sexuality Education Committee” 26th congress of the World Association for sexual health (WAS) Turkey
(中学校第一学年)

3. 書籍

- 1) 荒田尚子, 三戸麻子, 岡崎友香, 西岡笑子 他. プレコンセプションケア. メジカルビュー. 2024.
- 2) 高橋幸子, 今井伸. 自分を生きるための〈性〉のこと SRHR 編. 少年写真新聞社. 2023
- 3) 高橋幸子. 12 歳までに知っておきたい男の子のためのうちでできる性教育. 日本文芸社. 2024

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

【引用文献】

- 1) UNESCO 編 浅井春夫, 艮香織, 田代美江子, 福田和子, 渡辺大輔 訳【改訂版】国際セクシュアリティ教育ガイダンス 科学的根拠に基づいたアプローチ, 明石書店, 2020.
- 2) 文部科学省平成 29・30 年改訂 学習指導要領、解説等
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm (参照日: 2022 年 4 月 26 日)
- 3) 中学生・高校生のために今こそ必要な女性の健康教育
https://www.pharma.bayer.jp/sites/byl_bayer_co_jp/files/jyoseinokenkokyouiku_rev.pdf (参照日: 2023 年 5 月 1 日)
- 4) Ishikawa H, Takeuchi T, Yano E.
 Measuring functional, communicative, and critical health literacy among diabetic patients. *Diabetes Care*. 2008;31:874-879.
- 5) 内田知宏, 上埜高志. Rosenberg 自尊感情尺度の信頼性および妥当性の検討—Miura & Griffiths 訳版を用いて— 東北大学大学院教育学研究科研究年報 第 58 集, 第 2 号. 2010, 257-266.
- 6) 荒田尚子, 高松潔, 立花 良之, 西岡笑子, 片井みゆき, 高橋幸子, 山本精一郎, 武藤香. 厚生労働科学研究費補助金女性の健康の包括的支援政策研究事業. 保健・医療・教育機関・産業等における女性の健康支援のための研究 2022 年度総括・分担研究報告書.
- 7) Eva S Goldfarb, Lisa D Lieberman. Three Decades of Research: The Case for Comprehensive Sex Education. *Journal of Adolescent Health*. 68,13-27,2021.
- 8) 西岡笑子. 学術研究からの少子化対策 日本衛生学会からの提言に向けて 思春期性教育、妊孕性認識の研究動向と性と生殖の健康教育に基づいたライフプランニングの可能性. *日本衛生学雑誌*, 73(2), 185-199, 2018.
- 9) 堀内比佐子. 教師が行う性教育の現状と責任～学習指導要領の解説書と教科書の内容をふまえて～. *思春期学*, 31(1), 47-52, 2013.
- 10) 石川ひろの. ヘルスコミュニケーションとヘルスリテラシー. *保健医療社会学論集*, 22(2), 16-21, 2011.